

2025 年 1 月 5 日

2024 年度「自立援助ホーム支援助成」事業実施報告書

団体名 公益財団法人福岡 YWCA

ホーム名 カルーナ FUKUOKA

代表者・役職名 氏名 代表理事 長下美香

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 申請事業の名称

カルーナ FUKUOKA の修学旅行

2. 自立援助ホームの概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

「カルーナ FUKUOKA」は、公益財団法人福岡 YWCA が運営する、定員 6 名の女子を対象とした自立援助ホームです。居場所がない子どもたちに安全にかつ、安心して生活できる居場所を提供することを福岡 YWCA の新しい使命と捉え、2019 年 4 月に開設しました。2015 年にスタートした公益財団法人京都 YWCA の自立援助ホーム「カルーナ」と共に、安心できる場を作り、社会で自立した生活が送れるように就労や就学の支援を行っています。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

様々な理由から家族旅行・修学旅行に行けなかった入居者の中には、学業や仕事で目まぐるしい日々を送り、趣味や旅行に行くまでの金銭的、時間的余裕のない子が多いです。また、自立のために貯金を行う目標を一緒に立てても、収入があると、すぐに目の前の自分の欲しいものに散財してしまう傾向にある子が多く、なかなか有意義な貯金が行えませんでした。今回は入居者からの要望もあり、本人たちが希望しているテーマパークに行かせていただき、それまでに必要なお金は各自で貯金してもらうこと、今まで経験できなかった旅行の楽しさを知ってもらい人生をより豊かにしてもらうためにこの旅行を計画しました。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

基本、本人たちにどのように過ごしたいか？考えてもらい旅行を計画・実施しました。

実施スケジュール(12 月 7,8 日)

1 日目 USJ

2 日目海遊館(その周辺観光)

ホームでの生活はルーティーン化してしまいがちで、イレギュラーなことがあると自分のペースを崩してしまいます。頂いた助成金やホームで何もかも負担するのではなく、飲食やお土産代は各自でお小遣い帳を付けてもらい、月々のお金の使い方を振り返りながら、計画的に貯金してもらいました。テーマパークなので、「被り物や飲食にお金がどのくらい必要か?」「ホーム門限までに帰り着くためには何時の電車に乗ればよいか?」等は予めリサーチが必要になるので各自事前準備をしてもらい、段取りをもって行動してもらう練習も兼ねて実施しました。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

旅行の参加者は当初より減ってしまいましたが、お小遣い帳を付けてもらう中で各自、自分に合った貯金方法を知れたことが大きかったと思います。(この旅行実施後も継続して自分でお小遣い帳を付けている子もいる。)入居者にとってお金と向き合う良いきっかけになりました。

初めて訪れるところへの不安や楽しみが伴う旅行、飲食、お土産代等のための貯金額設定は、ホームを自立するときにも訪れる感情、準備に繋がり、自立に向けた模擬体験になりました。帰りの駅で、参加した入居者から「また自分でお金貯めて USJ 来きます！」と言ってくれて、楽しんでもくれたことはもちろん、当初の目的通り、彼女たちの世界が広まったのでは？と嬉しかったです。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

旅行当日の入居者の参加者が2人(体調不良や実施ギリギリでの入退所の影響により)だったので、その場で互いに譲り合いながらのびのびと実施できたが、当初想定していた集団行動の煩わしさやトラブルなどなく実施できてしまいました。スタッフとそれぞれの入居者が話す時間はあっても、参加する入居者同士で話し合う時間もなかなか取れず、スタッフがそれぞれの意見をまとめて提示・調整してしまった部分もあるので、もっと入居者同士で話し合える機会を作れたらよりよかったのでは？と思います。

7. 参考資料:プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等の現物またはコピー、活動状況の写真などを、“必ず”、別途、ご提供ください。

